

# 武蔵台公園保全活動作業記録

1 日 時 令和3年3月15日(火) 午後2時～4時

## 2 参加者

- (1) 東京農工大学大学院准教授 吉川正人氏
- (2) 自然環境調査員会議委員10名
- (3) 府中市環境政策課自然保護係

3 活動場所 全エリア及び国分寺市黒鐘公園、伝鎌倉街道沿い

4 目 的 武蔵台緑地における植生管理方法のうち、特に常緑樹についてエリアや種類ごとの取扱い方を身に着けることを目的とする。

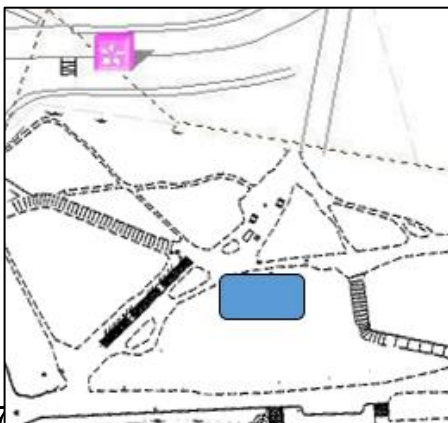
## 5 活動内容

吉川先生の解説のもと、公園内A～Dエリア及び黒鐘公園付近を回り、樹木（特に常緑樹）を中心に観察しながらエリアや種類ごとの保全方針を学んだ。またヒサカキ、イヌツゲなどの一部樹木には名前を書いたネームカードを結び付けた。

## 6 樹木（特に常緑樹）の保全管理にあたって重要なこと

- ・トウネズミモチについては、すべて取り除くこと。再生力が強いので、根気よく刈り取ることが大切である。
- ・シュロも取り除いてよい。
- ・アオキについては植生管理ガイドラインに基づき、エリアごとの方針に合わせて対応すること。
- ・ナンテンはもともと関東に育成する植物ではないため、除去してよい。
- ・ヒサカキ、イヌツゲは多少残しておいてよい。
- ・A松林エリアでは、後継樹（アカマツ）を育てることが大切である。常緑樹は全部取り除くこと。
- ・ユズリハも伐採の対象である。
- ・ジャノヒゲは増えてきたら間引く程度の管理でよい。

## 7 その他



A松林エリア南側のB2雑木林エリア（青部分）では、ナラ枯れしたコナラ、クヌギを伐採したことにより、高木が無くなり、日光が林床に当たるようになっている。

この状態は、コナラやクヌギの後継樹をドングリから育てていくチャンスであり、今後林床の落ち葉かきを行うことでドングリが育つことのできる状況を整備することがチャンスを活かすためのポイントである。





・自然環境調査員10名が参加した。



・レクチャーいただいた吉川先生



・ネズミモチとトウネズミモチの違いについて学ぶ





・A 松林南側B2雑木林エリアでのレクチャー